

## オープンイノベーションに必要な制度面の対応や戦略の検討

## ■概要

研究企画推進室は、NICT職員が研究開発等の様々な活動をする際に、倫理的な側面などで問題なく適切に行えるようにするための制度の整備や運用、NICTの知的財産戦略や標準化戦略の検討、研究開発成果の普及に向けた活動の具体化といった業務をNICT内外と連携しながら推進している。

## ■平成30年度の成果

研究企画推進室では、既存制度を再整理しながら、オープンイノベーション推進本部の下で各種の制度の業務運営の円滑化を図りつつ、標準化戦略や知的財産戦略の検討、研究開発成果の普及に向けた活動を行った。

## 1. オープンイノベーション及び社会実装に向けた制度面での対応

NICT職員が研究開発等の業務を進め、外部と連携し、また研究開発成果を社会展開するうえでは、関係法令などを遵守することはもとより、一般社会に信頼され安心して受け入れられるように、社会的受容性の観点でも適正なマネジメントを行うことが必要である。研究企画推進室では、こういった制度面での対応のため、パーソナルデータ取扱研究開発業務審議委員会、利益相反マネジメント委員会、生体情報研究倫理委員会の事務局としての機能を果たしている。平成30年度は、これらの委員会の事務局業務を円滑に進めるとともに、パーソナルデータ取扱研究開発業務審議委員会においては新しく8件の研究開発課題についてプライバシー侵害のリスクが高いと判定し、リスクを低減する方策を重点的に審議した。

## 2. 標準化・知的財産戦略

戦略的かつ重点的な標準化活動がNICTの研究開発成果の最大化のための重要な方策の1つであるため、イノベーション推進部門標準化推進室と共に平成28年度より標準化アクションプランを策定して、その後適宜適切な更新を行っている。このアクションプランでは、NICTが重点的に標準化に取り組む分野を特定し、具

体的な行動計画等を定めており、平成30年度においても内容の現行化などの改訂に取り組んだ。また、ワイヤレスネットワーク総合研究センターが進める工場のIoT化の加速を目指した無線システムの協調制御と安定化技術の標準化活動を強力に支援するため、民間企業等と協力して設立したフレキシブルファクトリパートナーアライアンス (FFPA) の活動を積極的に支援し、ユーザーグループのVoC (Voice of Customer) Community設立やIEEE802.1ワーキンググループ中間会合の広島開催を主導した (図1)。

知的財産戦略としては、イノベーション推進部門知財活用推進室と共に知的財産戦略委員会の事務局としての委員会運営を行っている。平成30年度には、特許の外国出願の際の基準の検討や重要な特許の維持に関する審議を行うため、委員会を計4回開催した。

## 3. 研究開発成果の普及に向けた活動

NICTの研究開発成果の普及を図るための取組として、平成29年度に規程を制定した技術相談制度を運用し、NICT全体で計11件の技術相談の実施に至った。技術相談は、企業等からの依頼を受けて、NICT職員が専門的知識に基づく技術的な助言等を有償で行う制度であり、今後、民間企業との連携拡大へとつながることが期待される。



図1 広島で開催したIEEE802.1ワーキンググループ (WG) 中間会合 (平成31年1月14~18日)